

幼・保・小・中 一貫教育プロジェクト

「めざす子どもの姿と働きかけ」 ～小学校6年生（12歳）～

阿久比町内の全ての大人がかかわり、阿久比町全体が^{まなびや}学舎となって、子どもを育てることを目指す、阿久比町幼保小中一貫教育プロジェクト。このプロジェクトでは、保護者の皆さんに子育てに関する数々のリーフレットや冊子を配布しています。

家庭・園・学校がともに育ち合うための手引き

今回は、「家庭・園・学校がともに育ち合うための手引き」の中から、小学校入学を迎える「幼稚園・保育園年長児（6歳）」の子ども「めざす子どもの姿と働きかけ」についてお伝えしました。

今回は、間もなく中学校入学を迎える「小学校6年生（12歳）」の「めざす子どもの姿と働きかけ」を紹介します。この冊子を参考に、中学校入学に向けて、子どもの成長をご確認ください。



めざす子どもの姿と働きかけ 小学校6年生（12歳）

「めざす子どもの姿」は、生活習慣、学習習慣、食育の3つの観点から設定されています。そして、手引きには、家庭や学校からの働きかけについて、右のように具体的に記されています。

<生活習慣>

▽社会の常識に合わせて行動する児童

<学習習慣>

▽学習習慣が身に付き、集中して学習する児童

<食育>

▽自分の健康を考えて、食事ができる児童

手引きには、上記の目標以外にも、あいさつや返事、敬語、公共マナー、友だちの意見を尊重する態度など、12歳の「めざす子どもの姿」とその働きかけについて書かれています。これらは、小学生以上に心身が成長していく、中学生の基礎となるものです。

子どもが中学生になって、保護者の方に気を付けていただきたいこと。それは、子どもとの距離感です。子どもたちは、中学生になると心身が急激に成長します。だからと言って、完全な大人になるわけではありません。自立・自律のために、距離を置く。しかし、目を離さず、いつでも声をかけ、親の考えを押しつけるのではなく、自分の考えを出させてください。過保護、過干渉、放任は子どものためになりません。ほどよい距離を保つことで、子どもが心身ともに大きく成長できるとよいと思います。子どもとともに、親・家族としての成長も楽しみながら、見守っていけるとよいですね。

家庭からの働きかけ

- 家族がお互いにあいさつする習慣をつくり、子どもと家庭のまわりについて話し合う時間をもつ。
- 相手に合わせた言葉遣いを教える。
- 公共の場において、適切な行動を示す。
- 習い事や塾で帰宅が遅くなる時は、翌日の準備を済ませてから出かけるように声をかける。
- 子どもが寝る時刻には一度テレビを消して睡眠時間が確保できるようにする。



学校からの働きかけ

- あいさつ運動などの工夫を通して、だれにでも進んであいさつができるようにさせる。
- 時と場所に応じた礼儀、態度、言葉遣いをその都度指導する。
- 道徳の授業・学校活動を充実させ、社会見学や校外学習等の実践の場で経験を積み重ねさせる。
- 毎月第3水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」を実施させる。

- 子どもとの対話のなかで、子どもの考えを認めながらもいるような考え方があつたことを教える。
- 学校で、友達とどのようにかかわっているか話題にする。
- 将来の夢について話題にする。



- 一人一人を大切に話し合い活動の充実を図る。
- 個々のよさを認め、大切にできる雰囲気をつくる。
- 「総合的な学習の時間」等を振り返り、自分の将来を考えさせる。



- 栄養が偏らないように配慮する。
- ご飯とみそ汁を自分で作ることができるようになる。



- 偏食の害を知り、バランスのとれた食生活が健康増進の源であることを理解させる。
- ご飯とみそ汁を、調理できるよう指導する。

